

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の目で歩き、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年			◎	○	△
			学	前	後			
41401	比較文化学概説	比較文化学の基本的な方法論や視点を、具体的な事例を通して学ぶ	2年		*	◎		
41402	文化人類学概説	文化人類学の基本的な考え方やものの見方を学び、異文化・異社会を理解する基礎力を身につける。	2年		*	◎		
41403	文化遺産学概説	有形・無形の別を問わず、文化遺産全般に対する基礎的な知識を身につける。	2年		*	◎		
41404	フィールド調査法	人文系フィールドワークに必要な基礎的知識と技術を身につける。	2年		*	○	◎	○
41405	比較文化論	世界の歴史的建造物を通して、建築が文化の表現であり、民族性、社会性などを読み取ることができるようにする。	2、3年		*	◎		○
41406	宗教文化論	仏教寺院の建築を通して、日本建築の特質を理解できるようにする。	2、3年		*	◎		○
41407	仏教文化論	インドで起こり、日本を含むアジア各地に伝播した仏教が、それぞれの地域と時代でどのような文化を生み出したかを学ぶ。	2、3年		*	◎		○
41408	文化変容論	文化の受容と変容におけるメカニズムと表象を、学際的に研究する方法を習得する。	2、3年		*	◎		○
41449	文化情報論	文化の持つさまざまな情報を収集、整理し、さらに発信する理論と実践を習得する	2、3年		*	◎		◎
41450	日本文化論	日本の文化の持つ独自性と普遍性を、世界のさまざまな文化と対比しながら学ぶ。	2、3年		*	◎		○
41409	南アジア文化論	仏教石窟、ヒンドゥー教寺院を通して、建築文化の融合の様相を把握できるようにする。	2、3年		*	◎		○
41410	日本の思想と宗教	仏教思想を中心に日本の思想と宗教に関する基礎的な知識と分析方法を習得する。	2、3年		*	◎		○
41411	地域文化論	文化人類学の視点から見た地域文化のあり方を、具体的な事例検討を通じて把握する。	2、3年		*	◎		○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の目で見る、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	--

#### 専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年			◎	○	△
			学	前	後			
41412	文化人類学講義	特定テーマを取り上げ、世界中の具体的な事例をとりあげながら、文化人類学的な観点から、その概念および実態を学ぶ。	2, 3年	*		◎	○	
41413	比較民族誌	東南アジアの、民族状況や民族の生活を学ぶことを通して、異文化理解の力を身につける。	2, 3年	*		◎	○	
41415	物質文化論	ヒトが作り、使うモノ(=物質文化)の歴史を考古資料、画像資料、文献資料、民俗資料などから跡付ける方法を学ぶ。	2, 3年	*		◎	○	
41416	比較先史学	世界各地の先史時代文化・社会を比較することで、地域的・民族的な特殊性と人類共通の普遍性とを抽出し、人類史の具体相について理解を深める。	2, 3年	*		◎	○	
41417	西アジア文化論	西アジア=アラブ=イスラームという偏った図式から一旦離れ、西アジア世界の本当の奥行きを知る。	2年	*		◎	○	
41418	西アジア先史学	西アジアの新石器時代～青銅器時代文化について、具体的な遺跡を通して学ぶ。	2, 3年	*		◎	○	
41451	比較美術史	東西の美術作品を視覚的かつ歴史的に洞察し、現代的視野でアプローチすることができるようにする。	2年	*		◎	○	○
41420	西洋美術史A	西洋美術の流れを様式史として把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年	*		◎	○	
41421	西洋美術史B	西欧におけるルネサンス美術について、その時代背景を踏まえて、作品の主題と表現を考察できるようにする。	2年	*		◎	○	
41452	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、画像資料、文字資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。	2, 3年	*		◎	○	
41453	世界遺産学	人類共有の財産とされる「世界遺産」の制度と理念、保護と振興、法整備と国際協力などの諸問題について基本的知識を身につける。	2, 3年	*		◎	○	
41422	博物館概論	博物館の基本的理念とその活動の実態を学び、学芸員が果たすべき役割と基本的知識を身につける。	1年	*		◎		
41456	博物館資料論	博物館資料の概要と種類、収集の目的と方法、整理と登録の実際など、博物館資料の取り扱いに関する基礎的知識を学ぶ。	2, 3年	*		○	◎	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年			◎	○	△
			年	前	後			
41457	博物館経営論	博物館の多様なあり方について理解し、それぞれの組織・制度や運営方法を把握した上で、学芸員として円滑に博物館を運営する方法を学ぶ。	2, 3年	*		○		◎
41425	比較文化論演習A	仏教に関する文献の読解力と、画像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2年	*			◎	○
41426	比較文化論演習B	仏教に関する文献の読解力と、画像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2年		*		◎	○
41427	南アジア文化論演習A	インドの文化を表象する彫刻、建築の基本的な文献を読み、作品の主題と意匠を文化的背景の中で理解できるようにする。	2年	*			◎	○
41428	南アジア文化論演習B	文献購読を通して建築用語になじみ、建築意匠の特質を理解できるようにする。	2年		*		◎	○
41429	アジア文化交流史演習A	仏教美術研究の比較文化史的手法を身につける。	2年	*			◎	○
41430	アジア文化交流史演習B	仏教美術研究の比較文化史的手法を身につける。	2年		*		◎	○
41454	文化情報論演習A	文化の持つさまざまな情報を収集、整理、発信するための手法を身につける。	2年	*			◎	○
41455	文化情報論演習B	文化の持つさまざまな情報を収集、整理、発信するための手法を身につける。	2年		*		◎	○
41431	地域文化論演習A	地域文化に関する民族誌や研究書を読むことで、地域文化が住民のつくる社会、制度、慣習、またその主要な生業や宗教信仰など多様な要素から構成されていることを知る。	2年		*		◎	○
41432	地域文化論演習B	事例研究を通して、文化を生かした地域社会のあり方やその生かし方を考えることができるようにする。	2年	*			◎	○
41433	文化人類学演習A	文化人類学および日本民俗学分野の日本語の論文を読み、内容を正確に理解するとともに、人類学的なものを見方を身につける。	2年	*			◎	○
41434	文化人類学演習B	特に英語で書かれたモノグラフを読むことを通して、文化人類学の報告書の読み方を学び、人類学的なものを見方の基礎を身につける。	2年		*		◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	--

#### 専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
41435	ヨーロッパ文化遺産学演習A	16世紀末に刊行されたイエズス会の図説福音書をテキストにキリスト教図像学の基礎を身につける。	2年	*		◎	○	○
41436	ヨーロッパ文化遺産学演習B	キリスト教の「旧約聖書」図像学を中心に、キリスト教美術読解の方法を身につける。	2年		*	◎	○	○
41437	東アジア文化遺産学演習A	東アジアにおける文化遺産学研究の現状と課題について幅広い知識を身に付けるとともに、実際の研究事例に当たり、理論と方法についても理解を深める。	2年	*		◎	○	○
41438	東アジア文化遺産学演習B	いわゆる先史／歴史時代の垣根を取り払い、考古資料、図像資料、文献資料、民族・民俗資料などを駆使して、東アジアにおける物質文化の変遷を明らかにする方法を身につける。	2年		*	◎	○	○
41439	西アジア文化遺産学演習A	西アジア先史・古代の文化遺産について、遺跡を単位として、具体的な調査データを基に遺跡のもつ歴史的・文化的意義を考察できるようにする。	2年	*		◎	○	○
41440	西アジア文化遺産学演習B	西アジア先史・古代の文化遺産について、その基本的枠組みを理解した上で、特定の遺跡についての包括的な考察ができるようにする。	2年		*	◎	○	○
41441	フィールド基礎実習	調査テーマの選び方、聞き取り、参与観察、音声・画像・ビデオ・データの記録・整理・活用、文字記録のつけ方と整理・分析法、仮説の形成ときたえ方、報告書の構成法などを実習を通して身につける。	2年		*	◎	○	◎
41442	比較文化学実習A	仏教儀礼、仏教美術、建築の調査を通して、比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3年	*		◎	○	○
41443	比較文化学実習B	比較文化学の基礎的な手法とともに、写真撮影の基本的な技術、デジタルデータの処理・整理・保存方法、ワード、エクセル、Photoshop等のソフトウェアの活用方法を身につける。	3年		*	◎	○	○
41444	文化人類学実習A	ミクロな地域社会での生活を、社会、経済、家族関係、信仰などの観点から総合的に把握する方法を身につける。	3年	*		◎	○	○
41445	文化人類学実習B	現地調査の観察・聞き取り資料や文献・統計資料をもとに、随時補充調査をおこないながら、データを整理・分析し調査報告書の形に纏めてゆく方法を学ぶ。	3年		*	◎	○	○
41446	文化遺産学実習A	文化遺産学分野の調査・研究に必要な不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3年	*		◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の目で歩き、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	---

**専門分野のカリキュラム**

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年			◎	○	△
			学	前	後			
41447	文化遺産学実習B	文化遺産学実習Aで習得したスキルを高度に発展させ、応用力を身につける。	3年		*	◎	○	○
41448	博物館実習	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。	4年	*	*		◎	◎
41458	博物館資料保存論	博物館資料の保存に関する基本的な理念、適切に資料を保存する上で配慮すべき環境諸条件、保存や修復の具体的方法について認識を深める。	2,3年	*		◎	○	
41459	博物館展示論	様々な種類の博物館資料を安全かつ効果的に設置する技術を習得するとともに、映像・音声資料などを活用する方法についても学ぶ。	2,3年		*		◎	○
41460	博物館教育論	博物館が担う教育的側面についての理論と方法を学ぶとともに、利用者の多様なニーズに応えるための方策について理解を深める。	2,3年	*			○	◎
41461	博物館情報・メディア論	ユビキタス社会における情報とメディアの取り扱いに関して理解を深めるとともに、博物館情報の収集・発信・共有についての基本的な知識と技術を身に付ける。	2,3年		*		○	◎
41501	日本古代史特殊講義	古代の官職制度の変遷と、その歴史的背景について理解を深める。	—			◎	○	
41502	平安時代史特殊講義	皇位継承儀礼の変化と、その歴史的背景について理解を深める。	—			◎	○	
41503	日本中世地域史特殊講義	守護大名大内氏に関し、幕府や朝鮮・明との関係を理解する	—			◎	○	
41504	日本中世寺院史特殊講義	中世における宗教と社会の関係及び聖地の役割を理解する	—			◎	○	
41505	日本近世社会経済史特殊講義	・日本近世の経済史に関する理解を深める ・近世経済史の研究の仕方を学ぶ	—			◎	○	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*		◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを正確に読解することができる。</li> <li>2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。</li> <li>3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</li> <li>4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。</li> <li>5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。</li> <li>6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。</li> </ol>	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「フィールド文化学概説」を中心に学ぶ。2年次には、比較文化学、文化人類学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方やフィールド調査における基本技術を習得するため、「比較文化学概説」、「文化人類学概説」、「文化遺産学概説」のほか、「フィールド基礎実習」で自分の目で歩き、自分の目で見る、自分の肌で感じるフィールド体験から学ぶ。3年次には、さらに専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B」を通してフィールドワークを生かした研究に取り組む</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
---	--

**専門分野のカリキュラム**

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期				
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*		◎	○	○
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		◎	○	○
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようになる。	1		*		◎		
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*		◎		
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1		*		◎		
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*		◎		
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*				○
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*				○
11014	フィールド文化学概説	フィールドワークとはどんな方法か、実際にどのように調査がおこなわれ、調査から得られるデータをどう整理・分析し、最終的に報告としていかに仕上げてゆくかを具体的な事例を通して学ぶ。	1年		*		◎		